

ひまわり HiMaWaRi

Vol.25
令和元年5月発行

男女共同参画推進室ニュースレター
The Newsletter of Office for Gender
Equality Promotion

発行：兵庫県立大学男女共同参画推進室
〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1
TEL:078-792-4822 FAX:078-794-5575

兵庫県立大学における男女共同参画の取り組み

豊かで多様な自然と社会を有し、世界に開かれ、日本の近代化を先導した地域である兵庫県内の恵まれた環境を生かした9つキャンパスで多彩な教育・研究活動を行っている本学では、それぞれの専門分野や特徴に合わせて、男女共同参画に関する様々な取り組みを行なっています。

「ひまわりHiMaWaRi」25号では、平成30年度の主な取り組みについてご紹介します。

キャンパス事業



播磨理学C
分室主催

働くを考えよう！自分らしいワーク・ ライフ・バランスとは

日時：平成30年7月18（水）

16:20～17:50

参加者：33名



地域創造機構講師の鴨谷香氏が講師となり、就職活動、働き方、ライフイベント等の説明とグループワークによる意見交換を行いました。参加者からは、性別にとらわれず、自分らしく仕事・ライフイベントに参加すればよいのだという気づきを得ることができたとの声が寄せられました。



姫路工学C
分室主催

工学ガールのためのサマーCafé

日時：平成30年8月10（金）

13:00～15:00

参加者：55名

女子高校生と保護者を対象として、第一部では在学生によるキャンパスライフ紹介と企業で働く卒業生の講演を、第二部では、先輩女子大学生とのフリートークを実施しました。大学生の生活を具体的に紹介することで、大学生活のイメージを持ってもらい、リケジョとして活躍するOGの話を通して、社会に



出てからの姿をイメージしてもらえる機会となりました。



豊岡C
分室主催

結婚・出産・子育て ～大奮闘中の研究人生を伝える～

日時：平成30年11月24日（土）

14:00～16:00

参加者：15名

中学・高校教諭兼二児の母であり、本学の博士課程に在籍し研究を続けている黒田聖子氏が、研究人生のエピソードと研究成果について報告しました。アンケートからは大変刺激を受けたという声が多数寄せられ、ある参加者は講演から学んだこととして、仕事・研究・子育てといった複数の役割をこなす極意は「本人の意思と健康」「明るくプラス思考」「周りとのコミュニケーション力→協力を得られる」とまとめてくださいました。



神戸商科C
分室主催

セミナー 留学生の受け入れについて

日時平成30年11月28日(水)

13:00～15:00

参加者：51名

平成31年4月の「国際商経学部」の開設を前に、女性の留学生を多数受け入れている福岡女子大学 国際文理学部准教授 馬場優氏を講師に迎えたとセミナーを開催しました。

女子留学生受け入れに関する現在の状況にとどまらず、講師自身の実体験を交えて、問題点やその対応、教育における留意点、注意事項等を詳細に説明いただきました。

会場からの質疑にも丁寧に答えいただき、教職員の子供留学生に対応する様々な不安などの心理的負担を軽減する機会となりました。

本部事業 ロールモデル発信

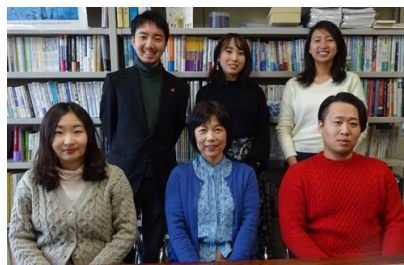
日時：平成31年2月24日（日）

22:00～22:15

サンテレビの「しごとびと」に、環境人間学部 乾美紀准教授（放送当時）が出演しました。テレビ番組上でのロールモデルの発信は、当番組前身の「キラリ☆けいざい」から数えて18人目です。

番組では、日本とラオスをフィールドとして、マイノリティの教育格差をテーマに研究している乾先生が、研究室を飛び出し、日本在住の外国人の子供たちの教育支援や日本で募金活動をしてラオスの山間部に小学校を建てる活動をしていることについて紹介

しました。2人のお子さんがまだ小さい時には、研究を続けていくうえで、ご家族の支えに加えて、本学の女性研究者への支援が役立ったというエピソードも紹介されました。



下段中央：乾美紀准教授（放送当時）。撮影には、卒論の執筆真っ最中だったゼミ生の皆さんも協力してくださいました。

裾野拡大

本学では夏休みに「ひらめきときめき☆サイエンス」として3つのプログラムを実施しました。最先端の研究について研究者から直接に学べる絶好の機会とあって、今年も多くの中高生の皆さんが参加してくれました。中高生が対象のプログラムですが、その内容は研究者が普段利用している器材による本格的なものです。そのため、本学内外から参加者を支援する研究者や学部生・大学院生が加わりました。それぞれのプログラムの参加者一人一人に「未来博士号」の証書が手渡されました。帰りに「絶対リケジョになります！」と声をかけてくれる参加者もあり、研究のバトンを引き継いでくれる研究者が出てくるのも遠い未来ではなさそうです。



こんなに役立っています！ 水溶性高分子

日時：平成30年7月21(土)
場所：姫路工学キャンパス
実施者：遊佐真一准教授
(工学研究科)

参加者：高校生8名
午前中の講義のあと、午後からは実験室に移動し、参加者1名につき1名の研究室の学生がサポートしながら「高分子カプセル(通称“人工イクラ”)」等の作成をし、参加者の多くが携帯電話等で撮影していました。



白衣と実験用メガネを着用して実験中

実験と実験の間には、“もぐもぐタイム”が設けられ、お菓子や飲み物を取りながら参加者の交流を行いました。

日本一の望遠鏡を使って天体観測

日時：平成30年8月1日(水)～3日(金)
場所：西はりま天文台
実施者：伊藤洋一教授
(自然・環境科学研究所
天文科学センター)

参加者：高校生16名
日本国内最大口径(2m)の「なゆた望遠鏡」を有する西はりま天文台で2泊3日の合宿形式で行いました。日中の講義と観測のほか、夜間には一般客とともに「なゆた望遠鏡」による観望会に参加し、閉館後に「なゆた望遠鏡」や小型望遠鏡を用いて夜を通して観測実習を行いました。



太陽を観測

最終日には「太陽系外惑星のトランジット観測」を通して自分たちで収集したデータを分析した研究報告を行いました。

地震に強い建物を模型とシミュレーションで体験しよう！

日時：平成30年8月7日(火)
場所：神戸情報科学キャンパス
実施者：永野康行教授
(シミュレーション学研究科)

参加者：中学生14名、高校生7名
講義のあと、震動台実験や卒業生たちが制作した街歩き等のバーチャルリアリティの体験をしました。また、交流会を兼ねた昼食後は耐震性を考えた模型作成およびコンピュータを使用した震度計算の実習を行いました。

実験の合間のクッキータイム・ディスカッションでは、参加者とサポートの大学院生がグループ(テーブル)毎に学習した事柄等について意見交換しました。



「未来博士号」授与式の様子

close up



高校生の時にこのプログラムに参加した理学部4年生(撮影当時)山下真依さんは、今回は支援者として参加しました。来年度は修士課程に進学。さらに研究を続けるそうです。

幹部教職員研修会

「男女共同参画推進を目指すアンコンシャス・バイアスの克服」

日時：平成31年1月23日(水)
場所：本部棟2階 中会議室
日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員の太坪久子氏を講師に迎え、アンコンシャス・バイアスの克服をテーマとする幹部教職員研修会を開催しました。
講演では、「アンコンシャス・バイアス」の概念(誰もが潜在的に持っている既存概念・固定観念)の説明に引き続き、バイアスの弊害を生み出さないための先事例等による克服方法について豊富な事例を示しつつ紹介していただき、「アンコンシャス・バイアス」によって、採用や昇任人事の判断にも影響を及ぼし得ること、そしてその弊害をなくすためには、バイ

アスの存在に気づくこと、さらにバイアスの影響が出にくいような仕組みを考え、作っていく(デザインする)ことが大切であることを学びました。
参加者からは、「テーマについて理解が深まった」、「事例が多くわかりやすかった」、「自分のこれまでを振り返ることができた」などの意見が多数寄せられ、アンコンシャス・バイアスへの理解促進を図ることが出来ました。



講演中の太坪久子氏

クリアファイル作成

研修会の開催を契機として、アンコンシャス・バイアスの克服をイベント等で啓発するクリアファイルを作成しました。



「アンコンシャス・バイアス」を知っていますか？

アンコンシャス・バイアス(Unconscious Bias)とは、無意識下の思い込みや、偏見のことです。これらのバイアスは、採用や昇進人事、キャリア選択、生活の中の役割分担など、様々な場面で影響を及ぼしています。無用な思い込みや偏見に気づき、その弊害を克服していくことが大切です。

